

ホウレンソウの栽培方法

品 種... 秋まき用: 寒さに強い日本種—新日本、日本、アラス、パレードなど
 春まき用: どう立ちの遅い東洋種—ミンスターランド、タイタン、ヤングパワーなど

①畑の準備

畑全体に石灰と完熟堆肥をばらまいて、15~20cmの深さによく耕す



PH5.2以下の土壌ではほとんど育たない

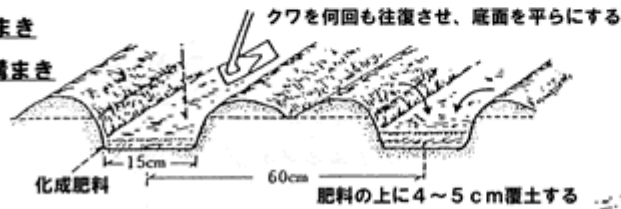
石灰 播種前に堆肥と一緒に1アール(100m)当たり10kgまく
 スギナなどが生える酸性の強いところでは20~30kg必要な場合もある

元肥(1アール当たり)

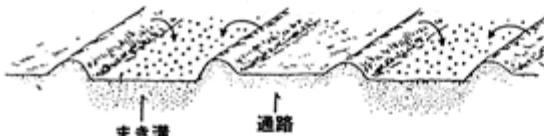
堆肥 200kg
 化成 8kg

②種まき

溝まき



クワを何回も往復させ、底面を平らにする
 肥料の上に4~5cm覆土する



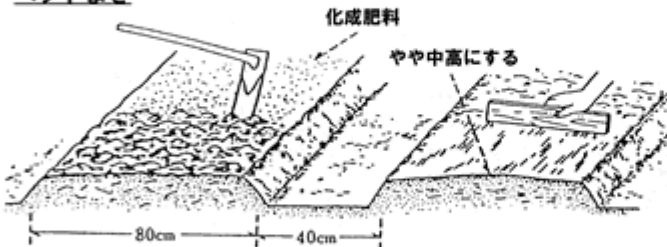
種を1.5~2cm間隔にまき、1cmぐらい覆土する

溝幅よりはみ出さないように注意して



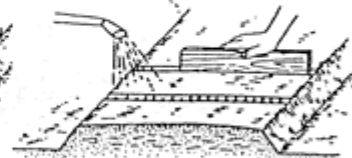
種まき前にじょうろのハスミロをつけて、溝いっぱいになるようかん水すると、底面がきれいに平らになり発芽がよく揃う

ベッドまき



化成肥料をベッド全面にばらまいて、15cmぐらいの深さによくうない込む
 板切れて床面をやや中高にして、排水がはかれるように平らにする

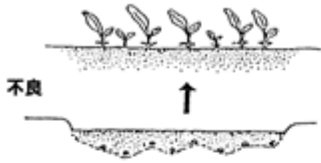
覆土したあとたっぷりかん水する



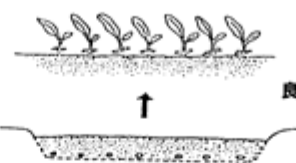
板切れて15cm間隔に、幅2cm深さ1cmぐらいのまき溝をつけ1.5cm~2.0cm間隔に種をまき、1cmの厚さに覆土する



溝全体に凹凸があるとがあると低いところに
水がたまり、立ち枯れが出やすい



まき溝の底面に凹凸があると、種の深さがまちまちなり、発芽不揃いの原因となる



③間引き



第1回 本葉1枚のころ
3~4 cm間隔に



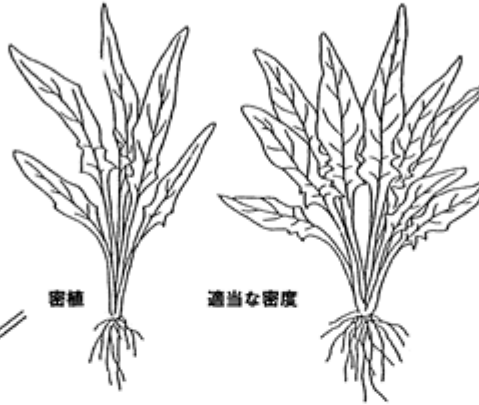
第2回 草丈が7~8 cmに伸びたとき、
5~6 cm間隔に

④病害虫防除

葉に黄褐色の
角ばった病斑
の出るべと病

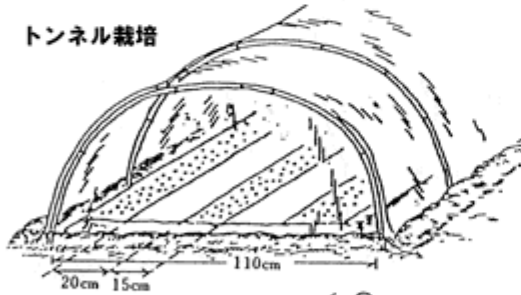


ダイセン水和剤
600倍液を葉裏
から散布する

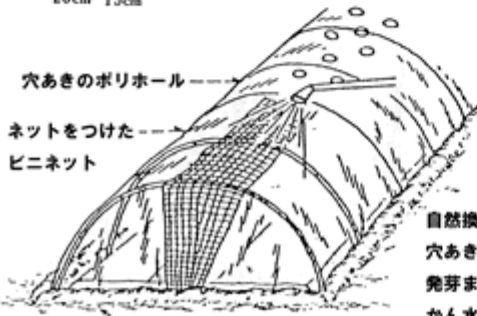


間引きの株間が狭すぎると軟弱徒し、葉色の
薄い、葉肉のうすい不良品になってしまう

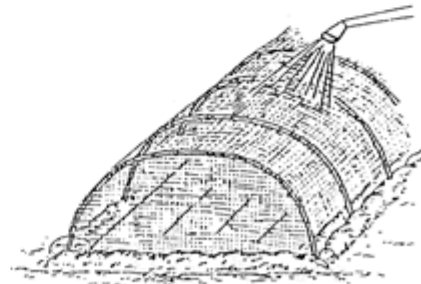
トンネル栽培



幅180cmのビニールの中には
3列種まきする。
種まき後たっぷりかん水して周りを
土でおさえ、密閉する



自然換気できる天井ネットつきや
穴あきの専用フィルムを用いるのが一番。
発芽までは他のビニールで穴をふさいでおく。
かん水はネット部分からできる



寒冷紗は育ちが遅いが徒長の心配
がなく、露地よりも育ちがよくなる。
かん水は、そのまま上からできる